

「珈琲」の文字を作った男

シンポジウム 岡山蘭学の群像Ⅱ

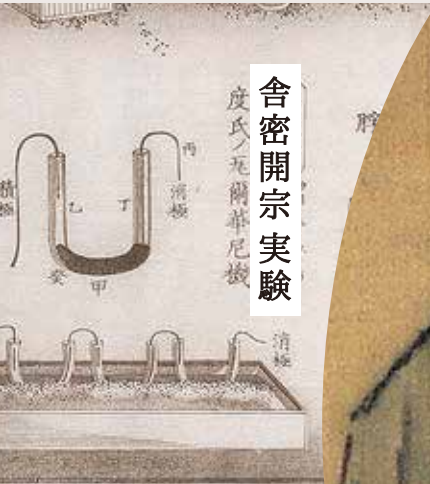
江戸のダ・ヴィンチ 宇田川榕菴

うだがわ ようあん

コーヒーカーン(復元)



シーボルトにもらった
顕微鏡(複製)



舎密開宗実験



○掛根

植学啓原



武田科学振興財団 杏雨書屋所蔵



オランダカルタ



張込帖

7月30日[木] 山陽新聞社 さん太ホール(岡山市北区柳町) 開演15:00 | 開場14:30

入場無料

◆基調講演「好奇心と冒険の人——宇田川榕菴」

◆パネルディスカッション ◆榕菴珈琲の再現 ◆榕菴音楽の演奏

■主催/公益財団法人 山陽放送学術文化財団 ■共催/岡山日蘭協会

■後援/岡山県、岡山県教育委員会、岡山市、岡山市教育委員会、津山市、津山市教育委員会、香川県、香川県教育委員会、(公財)岡山県郷土文化財団、山陽新聞社

「珈琲」の文字を作った男

江戸のダ・ヴィンチ 宇田川榕菴

宇田川榕菴はマルチな人である。

医学を極めていくなかで、わが国初の植物学書「植学啓原」や、わが国初の化学書「舎密開宗」を著す。「花粉」などの言葉や、「酸素・水素」などの元素名、「酸化・還元」などの化学用語、「細胞」「属」といった生物学用語も彼が作った。

また、オランダ商館長と面談した際に飲んだkoffie(コーヒー)を日本に紹介し、その効能をまとめた論文「哥非乙説」を著したほか、西洋音楽理論や音声学の研究、温泉の成分分析、そして西洋スゴロクやトランプを模写して流行らせるなど、『日本で初めて』のことに積極的に取り組んだスーパーマンであった。

シンポジウムでは、榕菴研究の第一人者、豊田高専の幸田正孝元教授ら研究者を招き、好奇心旺盛で、なんでもこなしたマルチぶりと功績を紹介するとともに、彼の遊び心の極みに迫る。

参加ご希望の方には「優待席」をご用意します

この用紙のままfaxでお申し込みください。

優待席お申込書

6月30日(火)〆切り

お名前
(企業名)

ご住所

申込人数

ご連絡先
(電話など)

fax 086-225-5046

希望者多数の場合は抽選とさせていただきます。

「優待席のご案内」はハガキでお知らせします。もちろん当日もご参加いただけます。

お問い合わせは 公益財団法人 山陽放送学術文化財団《tel 086-225-5531》

優待席お申込は、ハガキ、e-mailでも受付けます

◆ e-mail nichiran@rsk.co.jp

◆ ハガキ宛先 〒700-8580 山陽放送内 (公財)山陽放送学術文化財団

出演者



■基調講演

豊田工業高等専門学校元教授

幸田 正孝

津山藩医であった宇田川家を藩政史料と著書稿本などから追跡・研究する宇田川家研究、榕菴研究の第一人者。「宇田川榕菴植物学資料の研究」など著書多数。



■パネリスト

獨協大学名誉教授

加藤 偉重

牧野標本館で植物分類学、形態学などを学ぶ。現在も首都大学東京牧野標本館客員研究員。「シーボルトが蒐集したシダ標本」など著書多数。



■パネリスト

青山学院女子短期大学学長

八耳 俊文

幕末から明治にかけて「化学」がどのような学問として捉えられ、誰がどのように学んだかを主テーマに研究。「『本草綱目』と江戸初期本草学の展開」など著書多数。



■コーディネーター

津山洋学資料館元館長

下山 純正

専門は洋学史、医学史。特に、在村蘭学者の動静を追うことを長年のテーマにしている。「宇田川玄真病状記とその一年」など著書多数。



■榕菴音楽の演奏

友光 雅司

備前市生まれ。ロッテルダム音楽院大学院に留学。オランダに根付く、素朴で純粋な音楽を伝えるピアニストとして活躍中。

榕菴珈琲

「珈」は女性の髪を飾る玉飾り

「琲」は玉飾りの紐を表す

当時のコーヒー豆はオランダを通じて入ったジャワ島産の希少種・アラビカ豆。

榕菴が「薫り高くすっきりした飲み口で、まるやか」と評した珈琲を、城西浪漫館(津山市)の協力によりコーヒーカン(煮出し器)を使って再現。当日、試飲・販売も行う。